

【公報種別】 特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】 第 7 部門第 2 区分
 【発行日】 平成 17 年 8 月 18 日 (2005.8.18)

【公開番号】 特開 2004-6841(P2004-6841A)
 【公開日】 平成 16 年 1 月 8 日 (2004.1.8)
 【年通号数】 公開・登録公報 2004-001
 【出願番号】 特願 2003-119003(P2003-119003)
 【国際特許分類第 7 版】

H 0 1 L 21/324
 C 2 3 C 16/458
 H 0 1 L 21/205
 H 0 1 L 21/22
 H 0 1 L 21/68

【F I】

H 0 1 L 21/324 Q
 C 2 3 C 16/458
 H 0 1 L 21/205
 H 0 1 L 21/22 5 1 1 G
 H 0 1 L 21/68 V

【手続補正書】

【提出日】 平成 17 年 1 月 28 日 (2005.1.28)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 特許請求の範囲

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

垂直方向へ延びる支持手段と、ウエーハを支持するために該垂直方向へ延びる支持手段から実質的に水平に延びる支持手段とを具備する架台において、前記実質的に水平に延びる支持手段の径方向内側の先端とウエーハとの接触点がウエーハの縁から測ってウエーハ半径の 20%～80%の範囲にあり、且つ、前記垂直方向へ延びる支持手段によって影となるウエーハ部分の面積がウエーハの全面積の 30%以下となるように前記実質的に水平に延びる支持手段が径方向へ延びることを特徴とする架台。

【請求項 2】

上記実質的に水平に延びる支持手段が上記垂直な支持手段から連続的に上方へと傾斜しつつ実質的に水平に延び、該実質的に水平に延びる支持手段上にウエーハが支持されたときに該実質的に水平に延びる支持手段の径方向内側の先端がウエーハに接触し、該実質的に水平に延びる支持手段の径方向内側の先端とウエーハとが接触する面積がウエーハの全面積の約 0.02%～約 1%の範囲にあることを特徴とする請求項 1 に記載の架台。

【請求項 3】

上記実質的に水平に延びる支持手段上にウエーハが支持されたときに該実質的に水平に延びる支持手段がウエーハの縁から該実質的に水平に延びる支持手段の径方向内側の先端まで連続して接触し、該実質的に水平に延びる支持手段の径方向内側の先端とウエーハとが接触する面積がウエーハの全面積の約 1%～約 5%の範囲にあることを特徴とする請求項 1 に記載の架台。

【請求項 4】

前記垂直方向へ延びる支持手段によって影となるウエーハ部分の面積がウエーハの全面

積の 10 % 以下となるように前記実質的に水平に延びる支持手段が径方向へ延びることを特徴とする請求項 1 に記載の架台。

【請求項 5】

垂直方向へ延びる支持手段と、ウエーハを支持するために該垂直方向へ延びる支持手段から実質的に水平に延びる支持手段とを具備する架台において、前記実質的に水平に延びる支持手段の径方向内側の先端とウエーハとの接触点がウエーハの縁から測ってウエーハ半径の 33 % ～ 66 % の範囲にあり、且つ、前記垂直方向へ延びる支持手段によって影となるウエーハ部分の面積がウエーハの全面積の 30 % 以下となるように前記実質的に水平に延びる支持手段が径方向へ延びることを特徴とする架台。

【請求項 6】

ウエーハと、垂直方向へ延びる支持手段とウエーハを支持するために該垂直方向へ延びる支持手段から実質的に水平に延びる支持手段とを具備する架台との組合せにおいて、該ウエーハの直径が 200 mm であり、前記実質的に水平に延びる支持手段の長さが少なくとも 32 mm であることを特徴とする組合せ。

【請求項 7】

ウエーハと、垂直方向へ延びる支持手段とウエーハを支持するために該垂直方向へ延びる支持手段から実質的に水平に延びる支持手段とを具備する架台との組合せにおいて、該ウエーハの直径が 300 mm であり、前記実質的に水平に延びる支持手段の長さが少なくとも 42 mm であることを特徴とする組合せ。